

～ナカノソトノヒト→ナカノフナカノヒト～

# 移住者の声



NPO 法人 北信州・ふるさと古民家を住み継ぐ会  
川島 直樹さん・幸子さん（北永江）

**すばらしい田舎暮らし  
気持ちが優しくなる**

豊かな自然と田舎暮らしに憧れて、東京から12年前に移住してきた川島さん夫婦は、斑尾山の麓で築230年の古民家を改修して暮らしています。

移住のきっかけは、東京で会社勤めをしていた直樹さんが体調を崩して入院し、「生き方を見直さなければ」と考えたことでした。

海外も含めて環境の良い移住先を探した川島さん夫婦。東南アジアやヨーロッパなど多くの場所を見て回った末に、二人の理想の暮らしを語り合ったところ、日本の田舎での古民家暮らしにたどり着きました。

「大好きなスキーをするのに便利な場所にある古民家」を条件に北信



州で空き家を何軒か見て回っていたところ、今の住まいと運命の出会いを果たした川島さん夫婦。「風雨にさらされた無垢の木の筋が美しく、木の温かさが、求めていた生き方に重なりました」と直樹さんは話します。それから2年の改修期間を経て移住した川島さん夫婦は、田舎での古民家暮らしを満喫しています。

「緑が多く自然豊かで、車の音が聞こえず、静かでのんびりと幸せ感いっぱい生活です。東京で生活していたときと比べて気持ちが優しくなったと感じています」という直樹さん。近くの棚田のあぜ道を猫と散歩するのが日課という幸子さんは、「そこから見える山々の景色が、な



京都府から「移住見学」に訪れた  
杉村さんファミリー

大阪での移住セミナーの際に川島さんの話を聞き、田舎暮らしの様子を実際に見せてもらおうと初めて中野市を訪れました。

山に囲まれ、農産物もおいしく、自然豊かな雰囲気がとても気に入りました。

んてすばらしいところに住んでいるんだと思わせてくれます」と話します。

現在は、「田舎に住んでみたい」という人たちのために市職員と共に移住相談会に参加して自身の体験を語ったり、自宅の見学の受け入れをしたりするなど、中野市への移住希望者の受け入れをサポートしている川島さん夫婦。「自分たちも移住してきたときは地域の方などに大変お世話になりました。恩返しに気持ちも込めて、移住者の先輩として、これから移住を考えている皆さんに田舎暮らしの素晴らしさを伝えるお手伝いができればいいですね」と思いを語ってくれました。





木工作家 (take-g)  
中川 岳二さん (吉田)

**不思議だった「おらがまち」という感覚が分かってきた**

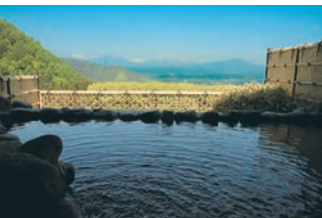
15年前、木工作家として創造と生活の場を求め、埼玉県から移住してきた中川岳二さん。「大学を卒業したばかりで駆け出しの作家だった当時、父方の祖母が中野で経営していた古いアパートが空き、工房として使わせてもらえることになったのが中野にきた理由です」と話します。

寄木の立体作品や玩具、家具制作に落ち着いて取り組める環境を手に入れた中川さんですが、当初は販売に苦労しました。しかし、地道な活動が実を結び、今では自宅ギャラリーで個展を開くと、国内外から中川さんの作品を求めて多くのファンが足を運びます。「交通の便が良く、首都圏と日帰りで行き来できるのは

中野のメリットですね」と中川さんは話します。

生活面でも「私の場合は『孫ターン』なので、祖父や祖母の地域とのつながりがあり、実感として溶け込みやすかったです」という中川さん。「自然との距離が近く、娘たちも伸び伸びと楽しそうに生活しています」と目を細めます。

北信五岳をバックに市街地が一望できる『ぼんぼこの湯』の露天風呂からの眺めがお気に入りという中川さん。「東京のベッドタウンで育った私は、自分が暮らすまちへの帰属意識という感覚がよく分からなかったのですが、この景色を見ていると、ここに住む人たちが『おらがまち』を熱く語る気持ちが分かるような気がします」と笑顔で話してくれました。



**日本全国を回って  
たどり着いた理想の場所**



ゲストハウスかのか  
高橋 秀一さん・庸子さん (金井)

宮城県仙台市から4年前に移住してきた高橋さん夫婦。旅行が好きで、添乗員の仕事をしてきた秀一さんは、日本全国を回った中で、北信州の地にほれ込んだといいます。

『日本の故郷』を感じさせるのかな田園風景、東山から見る北信五岳、長野電鉄の信濃竹原駅など木造駅舎の風情ある佇まいに惹かれました。生活する場としても、お店や住むところ、大きな病院もあって、田舎過ぎず、都会過ぎず、バランスがちょうどいいと感じます」と秀一さんは話します。

高橋さん夫婦は、いつかやりたいと思っていた小さなゲストハウスを昨年オープン。志賀高原など北信州

の玄関口で、小布施や善光寺にも近く、首都圏からもアクセスしやすい中野は、2人の夢をかなえる場所としてぴったりでした。

「宿泊客とおすすめスポットの情報交換ができるような宿にしたいです」と話す秀一さん。志賀高原のトレッキングや自転車のレース、マラソンなどで訪れる方が多いほか、壁田城址や替佐城址など古城巡りが目的の方もいて、知らなかった地域の魅力をお客さんを通して教えてもらうこともあるそうです。

「お客さんとの交流の中で、中野市が移住先として魅力的な場所だと発信していければと思います」と高橋さん夫婦は話してくれました。

